

太田川駅 駅前広場(西)、太田川駅西歩道(30m歩道)、沖縄広場

Station Square, Pedestrian Walk, Okinawa Square at the West Side of Otogawa Station, Tokai City, Aichi Pref.

岡田 憲久 *Norihisa OKADA*



上：写真1 駅前広場(西)が再開発ビル「ユウナル東海」前に広がる。
下：写真2 太田川駅の西側出口を出ると大屋根のかかった30m幅員の歩道が迎える。

愛知県東海市では中心街再生の一環として名鉄太田川駅の東西約1kmにわたる緑のネットワーク計画を進めてきた。筆者は平成22年より総合監修者として設計、施工意匠監理、全体のデザイン調整等を行ってきた。平成25年にどんでん広場(東側歩道/駅前広場)、平成26年に大田公園が供用開始したのに続き、平成28年には駅の西側一帯を形成する駅前広場(西)、西歩道(30m歩道)、及び沖縄広場が竣工した。駅西のランドスケープは駅舎、鉄道高架橋、再開発ビルのユウナル東海(東海市芸術劇場)、商業施設ラスバ太田川という大きな構造物に囲われた空間である。加えて立体横断施設で駅西線を超えて降りた部分の小広場も含まれる。

東側のどんでん広場は東海市の顔であり、イベント広場ともなるシンプルでオーソドックスなデザインとした。ひるがえって西側は限られた場所に駅、劇場、商業施設、日本福祉大学東海キャンパスなどへ行き来する歩行者の多様な動線が交錯する。管理・緊急車両が進入する余地も残さなければならない。このため広場は舗装面が主となり、その中にどの方向からも障害となりにくい円で植栽地を区切った。大、中、小とりズムを持って配置した緑の円はデザインのポイントでもある。



図1 東海市太田川駅周辺図



図2 太田川駅西側平面図

駅前広場(西)

東海市芸術劇場の東エントランス前は大きな円弧を描くベンチを設置。その背後にカツラの木を列植しエントランス付近を軽く囲って観劇の前後などに腰掛けて休息できる場とした。ベンチは彫刻家である木方立樹氏にアドバイスをもらい、劇場という芸術空間に見合うような質とした。

広場南側の一画には、東海市出身の偉人であり儒学者の細井平洲と米沢藩主上杉鷹山の『対面の像』(彫刻家、工藤潔氏制作)が緑に囲まれて行き交う人を見守る。「対面の広場」と名付けられたこの空間は山深い米沢の地を想い起すよう、針葉樹で囲み自然石を配し、日本庭園の手法を使いながらも全体のモダンな広場空間と共存させた。



写真3 太田川駅西側出口から木立ちの間の園路を通過して芸術劇場のエントランスへむかう。



写真4 芸術劇場エントランスを囲う彫刻的ベンチ。



左：写真5 駅前広場の『対面の像』周辺は『対面の広場』と名付けられた。米沢市との姉妹都市の広場でもある。チャート碎石で石畳をつくり、山里らしい荒々しさを演出。サワラ等の樹木で囲み場を作りだす。右：写真6 「対面の広場」への入り口。



写真7 駅前広場を見下ろす。舗装と緑地が呼応している。



写真8 駅前広場を太田川駅入り口に向かって見下ろす。

太田川駅西歩道(30m歩道)

幅員30mの太田川駅西歩道には雨天時のイベントのため大屋根の設置が要求された。そこで樹木をイメージしたデザインを提案しランドスケープのデザインとそろえることに努めた。また太田川駅西線を渡る立体横断施設の基本デザイン、監修も行った。

駅を出て最初に出会う大きな円形の緑地にはユウナル東海とラスパ太田川をつなぐ空中通路への階段が設置され、オリーブを植えた緑地の中には総合案内看板(デザインは木方千春氏)を設けた。この緑地の縁石はベンチとしての役割もある。駅西広場と同様、ところどころに自然石を配している。中央には大きなカツラの株立ちの木を植え西歩道の端を締めるポイントとした。



写真9
西歩道を見下ろす。
円形の緑地をランダムに配置。
立体横断施設が西へと伸びる。

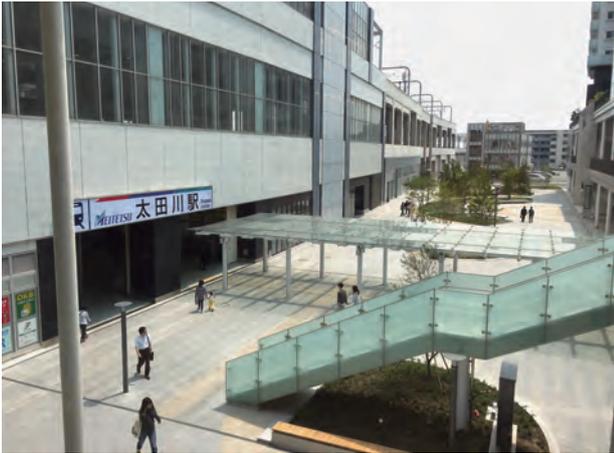


写真10 太田川駅西側出口付近。シェルター越しに広場が見える。



写真11 歩道上部にかかる大屋根。舗装に影が落ちる。



写真12 石と木を組み合わせたベンチ。



写真13 立体横断施設の高欄は(株)風憩セコロが設計協力、施工を行った。



写真14 大屋根の下でオープニング。



写真15 夜景

沖縄広場

立体横断施設は太田川駅西線を超え西歩道である30m歩道と既存の15m歩道とをつなぐ。立体横断施設の施工に合わせて、15m歩道側の階段付近に東海市の姉妹都市沖縄市を記念した「沖縄広場」を設計した。円形の広場で沖縄の素材

である琉球石灰岩を舗装材やベンチの壁面等に使用し、シーサー（沖縄市在住の宮城秀雄氏制作）が通行人を見守る。広場中心には沖縄の方位を示す方位盤を設置し、その真ん中に『沖縄の海』と題するコバルトブルーの陶板（本学陶芸コース松室未姫制作）を設置した。



写真16 立体横断施設を降りるとシーサーが迎える沖縄広場がある。琉球石灰岩で舗装し、中心に方位盤を設置。ベンチで休むこともできる。既存の緑道が大田公園と日本福祉大学東海キャンパスへつながる。



写真17 沖縄市への方角と距離を示した方位盤。中心の陶板は名古屋造形大学の学生が制作した「沖縄の海」。



写真18 本学学生 松室未姫が彫刻家木方立樹氏と陶芸室技術職員 渡辺泰幸のアドバイスを心得て「沖縄の海」を制作中。



写真19 沖縄で琉幸建設株式の琉球石灰岩の土場を視察。



写真20 琉球石灰岩を貼る。

広場・歩道ができるまで

様々な職人さん達の手をへて完成にこぎつけました。



写真21 関ヶ原アトリエにて彫刻的なベンチを制作。



写真22 彫刻ベンチを現場に設置。



写真23 「対面の像」の台座のコンクリートをはつる。



写真24 岐阜県揖斐にて自然石を選ぶ。



写真25 現場(駅前広場)で景石を設置。



写真26 歩道で最も大きい景石を据える。



写真27 芸術劇場入口前の円形舗装の途中。



写真28 円形舗装の中心の石張り。



写真29 コンクリート舗装にカッター目地を入れる。



写真30 樹木を植える。地下支柱を設置。



写真31 ベンチ座面は保存処理木材を使用。

作品データ

名称	太田川駅 駅前広場(西)、太田川駅西歩道(30m歩道)、沖縄広場
所在地	愛知県東海市大田町下浜田始め2地内
発注者	東海市
設計	総合監修/岡田憲久(名古屋造形大学)、設計・意匠監理/ 岡田憲久、田井洋子(景観設計室タブラ・ラサ)、 大石浩(エスプランニング)、土木/玉野総合コンサルタント(株)、 大屋根・連絡通路設計/株大建設、 立体横断施設/株協和コンサルタント、 その他デザイン協力/株藤川原設計(大屋根・立体横断施設)、 木方立樹(円形ベンチ)、木方千春(総合案内板・方位盤)、 松室未姫(陶板「沖縄の海」制作)
施工	株オームラ組(駅前広場西)、株中村土木(30m歩道)、 株山長造園(植栽)、株西松建設(大屋根)、 坪井工業株(立体横断施設)
規模	0.75ha
竣工	駅前広場(西)2015年10月、駅西歩道・沖縄広場、2016年3月
仕様	舗装/インターロッキングブロック、ベンチ/花崗岩、保存処理木材、 植栽/カツラ、アオダモ、アオハダ、イロハモミジ、オリーブ、シマトネリコ、 サワラ、ヤマザクラ、クロガネモチ、ナンキンハゼ「メロキヤンドル」、 アガパンサス、クマザサ、コンボルブルス、ローズマリー他

※写真 景観設計室タブラ・ラサ